

パブリックスペース・デザインガイドライン

- 1 ランドスケープ
- 2 植栽
- 3 サイン
- 4 光環境
- 5 アート
- 6 ファニチャー
- 7 **色彩**
- 8 素材

LANDSCAPE  
GREEN  
SIGN  
LIGHTING  
ART  
FURNITURE  
**COLORING**  
MATERIAL

## 1) コンセプト

新キャンパスにおける『色彩』の役割として、以下が挙げられる。

- 1) 自然の変化を大切に、楽しむことができる環境をつくる
- 2) 大学で活動する人々を生き活きと目立たせる
- 3) 大学の個性を引き立たせ、魅力的に演出する
- 4) 建築物を景観に調和させ、量感を軽減する

デザイン・マニュアルにおいては、以下のコンセプトに基づいて新キャンパスにおける『色彩』のあり方を示す。

### 飽きのこない色彩環境を形成する

景観の“地”(背景)となる基調色(ベーシックカラー)を設定する  
必要に応じて強調色(アクセントカラー)を使用する

### 「九大らしい」色彩環境を形成する

UIで規定されたシンボルカラー( - 2 参照)の効果的な活用を図るとともに、色彩分析によって現キャンパスのイメージの活用を図る。

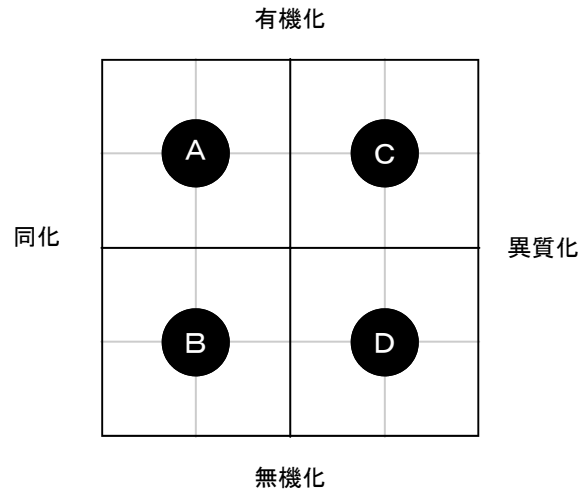
### 周辺景観を活かす色彩環境を形成する

自然の緑を引き立てるため、緑の鮮やかさを越えない「彩度」を規定する。

### 構成要素間の調和に配慮する

パブリックスペースを構成する要素間の色彩・素材の統一または調和を図る。

2) 色彩選定の考え方



色彩選定のためのマトリックスを左図に示す。このマトリックスは、以下の四つの項目から構成される。

【縦軸】

- ・有機化の方向で、自然を生かす
- ・無機化の方向で、都市化を目指す

【横軸】

- ・同化の方向で、風景に対して違和感なく同調させる
- ・異質化の方向で、風景に対して目立たせる

縦軸・横軸のマトリックスでは、A:「同化・有機化型」、B:「同化・無機化型」、C:「異質化・有機化型」、D:「異質化・無機化型」の典型的な4つのタイプがエリアとして示される。

パブリックスペースにおける色彩選定にあたっては、地域の景観への同化(類似型)を全体の基本としつつ、自然を生かした上でのポイント的な異質化によって景観にアクセントを加えることを計画方針とする。上記マトリックスでは、「A」「B」「C」の各エリアがこれに相当する。

各「色彩タイプ」に対応する「目標」「配色のイメージ」及び「適用(例)」を下表に示す。

色彩タイプ	目標	配色のイメージ		適用(例)
A: 同化・有機化型	自然を生かして環境に溶け込む	「同化(類似)」させる基調色に近い色相・彩度・明度を選択	類似型配色	大面積を占める舗装・建築物の壁面など、景観の「地」を形成する要素となるもの
B: 同化・無機化型	近代的な施設でありながら環境に溶け込ませる		ゆるやかで中庸となる配色	
C: 異質化・有機化型	自然を生かしながら、目立って目印になる	「異質化(対比)」させて色相・彩度・明度の異なる対比的な関係を選択	自然の色に調和しながら、アクセントとして目立つ色を「少量」使用	限定的に使用する
D: 異質化・無機化型	先端的イメージを強調する		自然と対立する配色	

### 3) 基調色の検討

#### 元岡地区の色彩分析

元岡地区の2ヶ所について行った環境色彩調査の結果を、右図に示す。

元岡(1)は学園通線から新キャンパス方向への景観を対象としたものであり、元岡(2)は新キャンパス建設現場を対象としたものである。

写真測色カラーパレットにおいては、色彩の出現頻度や面積が多い領域が、対象地の基調色と考えられる。

2ヶ所に共通する色彩としては、農地等の植物の「Y」と空の「B」が大きな領域を占めていることが挙げられる。上記以外の共通色としては、色相「RP」～「YR」にかけての低彩度の色彩(図中赤囲み部分)があり、この領域の色彩が元岡地区の基調色として挙げられる。

パノラマ画像

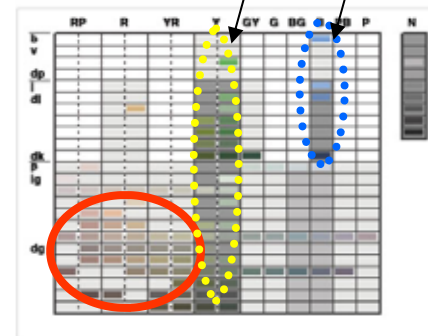


拡大画像

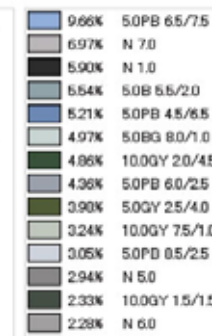


元岡(1): 学園通線

写真測色カラーパレット(全体)



色彩構成比



パノラマ画像

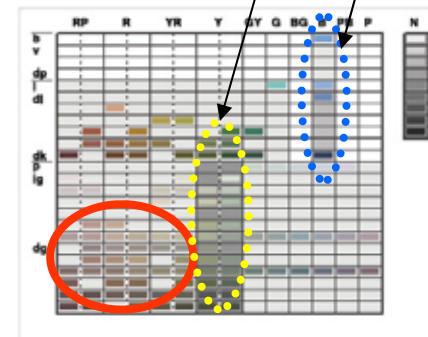


拡大画像

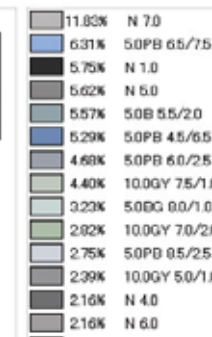


元岡(2): 新キャンパス

写真測色カラーパレット(全体)



色彩構成比



研究教育棟の色彩分析

新キャンパスで建設中の研究教育棟 1 の壁面2ヶ所について行った環境色彩調査の結果を、右図に示す。

研究教育棟(1)は 1 棟の南側壁面を対象としたものであり、研究教育棟(1)は 1 棟の妻側壁面を対象としたものである。

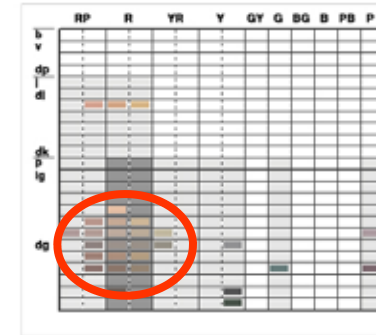
研究教育棟の2ヶ所に共通する色彩としては、色相「RP」～「YR」にかけての低彩度の領域(図中赤囲み部分)があり、 で挙げた元岡地区の基調色にもほぼ一致したものとなっている。

拡大画像



研究教育棟(1): 1 棟壁面

写真測色カラーパレット(全体)



色彩構成比

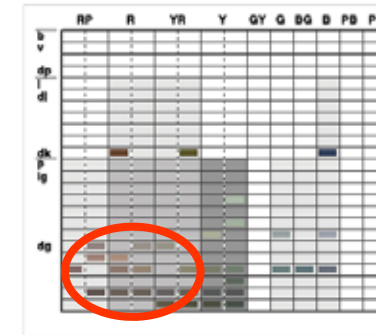
13.57%	10.0YR 6.5/3.5
11.43%	5.0YR 7.5/3.5
7.14%	5.0YR 6.5/5.0
7.14%	5.0YR 6.0/3.5
5.71%	10.0YR 6.0/3.0
5.71%	10.0YR 7.0/5.5
4.29%	5.0YR 5.5/3.0
4.29%	5.0Y 6.5/1.5
3.57%	5.0YR 5.0/1.5
2.86%	10.0YR 6.5/2.0
2.06%	5.0YR 6.5/2.5
2.86%	5.0YR 4.0/2.5
2.14%	10.0R 5.5/3.5
2.14%	5.0R 6.0/2.5

拡大画像



研究教育棟(2): 1 棟妻側壁面

写真測色カラーパレット(全体)



色彩構成比

13.57%	N 1.0
9.29%	5.0B 3.5/2.5
6.43%	10.0GY 3.0/0.5
5.71%	5.0GY 4.0/2.5
4.29%	5.0PB 3.5/2.5
4.29%	N 2.0
4.29%	10.0YR 4.5/2.5
4.29%	10.0Y 4.5/2.5
3.57%	N 5.0
3.57%	N 4.0
2.06%	10.0R 5.0/1.0
2.86%	5.0Y 2.5/2.0
2.14%	10.0GY 3.5/2.5
2.14%	5.0PB 1.5/4.0

箱崎地区の色彩分析

現キャンパス箱崎地区の2ヶ所について行った環境色彩調査の結果を、右図に示す。

箱崎(1)は事務局庁舎前を対象としたものであり、箱崎(2)は箱崎幹線交差点を対象としたものである。

箱崎(1)では、特徴的な赤れんがを示す中彩度の色彩が現れているが、全体には低彩度の色彩が中心となっている。

箱崎地区の2ヶ所に共通する色彩としては、樹木を主とする「Y」を除けば、色相「RP」～「YR」にかけての低彩度の領域(図中赤囲み部分)が挙げられるものであり、元岡地区とほぼ同様の色彩環境にあるものと判断できる。

また、元岡地区との比較では、箱崎地区の方がやや暗いトーンの色に偏った傾向にある。

パノラマ画像

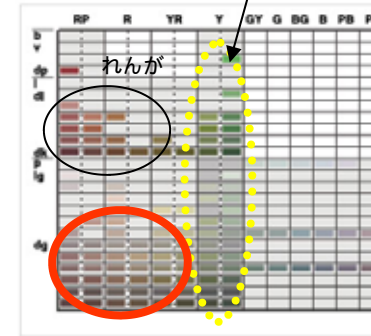


拡大画像



箱崎(1):事務局庁舎前

写真測色カラーパレット(全体)



色彩構成比

14.22%	N 1.0
10.77%	N 9.0
5.76%	N 5.0
3.43%	10.0GY 2.0/4.5
2.94%	N 4.0
2.91%	N 2.0
2.82%	10.0GY 5.0/1.0
2.42%	10.0Y 2.5/2.0
1.88%	N 7.0
1.88%	5.0Y 3.5/1.0
1.79%	10.0GY 4.0/2.5
1.74%	5.0GY 2.5/4.0
1.37%	5.0YR 2.5/2.5
1.36%	5.0GY 1.5/2.0

パノラマ画像

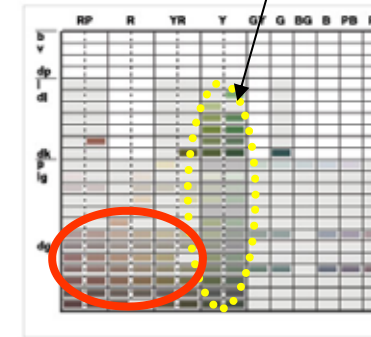


拡大画像



箱崎(2):箱崎幹線交差点

写真測色カラーパレット(全体)



色彩構成比

15.56%	N 1.0
13.21%	N 9.0
9.35%	10.0GY 2.0/4.5
7.94%	N 5.0
4.34%	N 4.0
4.24%	5.0GY 2.5/4.0
3.36%	5.0G 4.0/2.5
2.49%	N 6.0
2.13%	10.0GY 5.0/1.0
2.09%	5.0GY 3.0/3.0
1.75%	10.0GY 4.0/2.5
1.67%	N 2.0
1.48%	5.0Y 3.5/1.0
1.39%	5.0GY 5.0/1.0

- 7 色彩

六本松地区の色彩分析

現キャンパス六本松地区の2ヶ所について行った環境色彩調査の結果を、右図に示す。  
六本松(1)(2)は、いずれも六本松キャンパスの中庭を対象としたものである。

六本松地区の2ヶ所に共通する色彩としては、樹木の「Y」を除けば、他の3地区と同様に、色相「RP」～「YR」にかけての低彩度の領域(図中赤囲み部分)が挙げられることから、基調色としてもほぼ同様の環境にあるものと判断できる。  
元岡地区との比較では、箱崎地区と同様に、やや暗いトーンの色が多い傾向にあると考えられる。

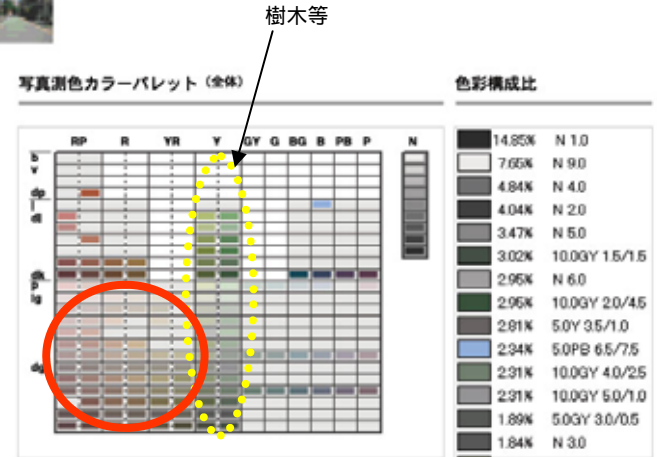
パノラマ画像



拡大画像



六本松(1):中庭



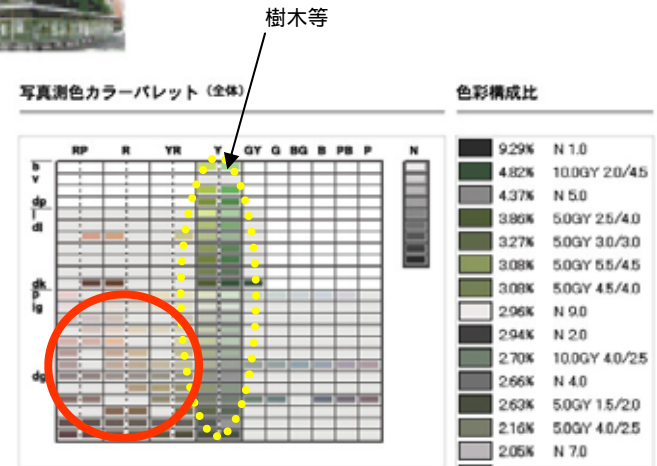
パノラマ画像



拡大画像



六本松(2)



#### 4) 基調色の活用

以上の検討から、新キャンパスの工学系地区と、現キャンパスの箱崎・六本松両地区の色彩環境は、比較的近い状態にあるものと判断できる。

工学系地区のように年月を経ても美しさを保ち、味わいを増していく素材の持つ基調色を原則とすることにより、現キャンパスの色彩環境の継承も可能とする。

箱崎地区の赤れんがに見られるように、同じ色相の範囲内であっても、トーンや彩度の違いによって空間の特徴付けやイメージの強調につながる色彩も認められることから、それらのポイント的な活用も必要である。

基調色の活用により、遠景からの眺望では周辺の景観に溶け込み、ディテールに見える近景では個性化を図ることを目指す。

#### 5) 彩度の設定

樹木の葉の色はおおむね彩度6以下であり、常緑樹では彩度3程度、最も鮮やかな新緑でも彩度8程度となっている。

樹木の葉色などの四季の変化を生き活きと見せるためには、緑の鮮やかさを越えない色彩を選択することが適切である。

基調となる色彩の選択は、壁面や舗装などの景観のベースとなる部分は彩度3以下、その他のものは彩度6以下に抑えることとし、落ち着いたある色彩環境の創出を図るものとする。ただし、公共サイン等で視認性の確保が必要なものについては高彩度な色彩の使用を認めるが、色相の選択によって基調色との調和を図る。

マンセル彩度区分と(社)日本塗料工業会(日塗工)色表番号の対応を以下に示す。

彩度区分

マンセル彩度記号	0.5	1	1.5	2	3	4	6	8	10	12	13	14
日塗工色表番号	A	B	C	D	F	H	L	P	T	V	W	X



## 6) 色彩選定の事例 ~ 研究教育棟 における外装色の検討事例

### 検討の要素及び項目

「色」と「素材」のテクスチャーを併せて検討  
年月が経っても美しさを保ち、趣を増す「色」「素材」の選定  
新キャンパスの位置する元岡地区の豊かな自然(山の土、緑、空)と調和した「色」「素材」の選定  
現キャンパスからの継承性に配慮し、現キャンパスの建築物の持つ色のイメージとの連続性を考慮

### 色彩選定の経緯

#### 【中間部柱型・腰壁】

基調となる南面中層部のアースカラータイルの色彩として、元岡の緑、山の土の色に合うカラー、テクスチャーを複数提案  
現地において壁面方位を合わせ、周囲との調和、他の部位とのコントラスト等を確認して決定

#### 【3層構成】

中層部のアースカラーを基準として選定  
ランドスケープと一体となる低層部は、より山の土色に近いアースカラーを選定  
スカイラインを形成する上層部は、空の色を意識した色彩を選定

#### 【壁面の分節】

リフレッシュスペースの外装色を、透明感のあるガラスとシルバーメタリック(塗装)で構成することにより、長大壁面のボリュームを分節

#### 【連続性と各部のアイデンティティ】

学府・部局のアイデンティティと建築の一連のまとまりに配慮し、南面腰部の色彩に変化を持たず  
西側では茶系色を中心に、東へ向かうほどメタリック系アクセントの割合を増やし、各ゾーンに変化を付けながら連続性を保つファサードを構成

#### 【各面のまとまり】

大学としての内部機能を素直に外装デザインに表現する  
各面において、骨格となるコンクリート打ち放し色のボーダーを連続させ、一つの棟としてのまとまりを持たせる

